

履修年次	科・コース	教科名	科目名	単位数	履修形態
高2	普通科（国公立特進）	数学	数学B	3	必修

<b>教科書</b>	新編 数学B（数研出版）
<b>その他の教材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリアー数学Ⅱ+B（数研出版）</li> <li>・クリアー数学Ⅱ+B完成ノート（数研出版）</li> </ul>

<b>目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベクトル：「向きと大きさ」という2つの要素をもつ量として学習するが、一般的には高次元までの量まで扱える新しい理論として提起され、その有用性は高いが、高校生にとってその概念の理論的な理解はなかなか難しいものがある。 二次元・三次元において具体的な問題をベクトルの手法を駆使してベクトルの概念を理解し使えるようになることが大切である。</li> <li>・数列：数の秩序のもつ不思議な美しさを感じながら、数を数えるという人間の最も基本的な活動を効率化するものであることに気付くことが大切である。美と実用性が結びつくのは数学全般の特性であるが、数列ではそれがもっとも端的に顕れる。</li> </ul>
<b>学習のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベクトル：平面や空間において、既習事項やこれまで不可能であった問題の解法を、ベクトルを用いて考えていく。</li> <li>・数列：いろいろな数の並び（規則）をもった数列について学び、どのように捉えていったら合理的に数えることができるかを考える。</li> </ul>
<b>定期考査</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間テスト・期末テストともに実施する。</li> </ul>
<b>評価の観点 および 評価の方法</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期評価 中間テスト・期末テスト合わせて8割程度。平常点2割程度。</li> <li>・学年評価 学期評価を総計して3で割ったもの。</li> <li>・平常点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・クリアーノート提出、豆テスト</li> <li>・長期休暇中の課題提出、課題テスト。</li> <li>・授業態度、授業出席度</li> </ul> </li> </ul>
<b>履修上の注意</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習をすること。</li> <li>・復習をすること。</li> <li>・わからないところをわからないままにしないこと。 （とにかくわからないところは調べるなり、質問するなりして解決する。）</li> </ul>

桜の聖母学院中学校・高等学校 年間指導計画

期	月	学習項目・学習内容	テストと評価
1 学期	4 月	第1章 平面上のベクトル ベクトルの演算 ベクトルの成分 ベクトルの内積	
	5 月	位置ベクトル ベクトルの図形への応用	中間テスト
	6 月	図形のベクトルによる表示	
	7 月	第2章 空間のベクトル 空間の点 空間のベクトル ベクトルの成分	期末テスト
夏季 休業		1学期にやった内容での復習プリントを課題とし、2学期初めに提出、確認を兼ね、実力テスト。	
2 学期	8・ 9 月	ベクトルの内積 ベクトルの図形への応用 座標空間における図形	
	10 月	第3章 数列 数列と一般項 等差数列 等差数列の和	中間テスト
	11 月	等比数列 等比数列の和 和の記号 $\Sigma$	期末テスト
	12 月	階差数列	
冬季 休業		2学期にやった内容での復習プリントを課題とし、3学期初めの授業で提出、テスト。	
3 学期	1 月	いろいろな数列の和	
	2 月	漸化式 数学的帰納法	
	3 月	問題演習	学年末テスト
春季 休業		復習プリントを課題として配布、新年度に提出。	